

## ロボット演劇における演出家のタイミング調整

橋本慎吾 (岐阜大学)

2012年11月に上演されたロボット演劇「アンドロイド版・三人姉妹」(演出・平田オリザ)には、音声を実装したロボットが登場する。この演劇において、このロボットは俳優のセリフに反応して自律的に発話するのではなく、ロボットの発話は全て予め作成され、俳優がロボットの発話に合わせて発話することにより、ロボットと人間の自然な会話を実現するという方法を採用している。ロボットの発話自体は台本に沿って予め作成されるが、発話タイミングや韻律、話速などは実際に俳優と稽古をする中で、演出家が調整をしていく。今回は発話タイミングについて、稽古過程において演出家がロボットの発話タイミングをどのように調整したかを分析した。

調整されるロボットの発話タイミングは事前にタイミングがプログラミングされ、ロボットの発話タイミングは毎回全く同じタイミングで行なわれる。発話タイミングは(1)ロボットの発話直後の俳優の発話タイミング(2)俳優の発話直後のロボット発話のタイミングの2種類あるが、(1)は俳優がタイミングを取ることができる(調整も俳優に対して指示がなされる)が、(2)はロボットがタイミングを取ることができないので、自然なタイミングに見せるためには、俳優の発話末からロボットの発話までの間のポーズ時間長を適切に設定しておかなければならない。つまり、(2)におけるロボットの発話タイミング設定は、演出家によって決められる適切なタイミングということになる(ロボットと人間の会話という特殊性は考慮しなければならない)。

今回の発表では、演出家によるロボットの発話タイミングの調整プロセスの特徴を示し、自然な会話を実現(表現)するためのタイミング制御について考察する。